

平成27年度 公益財団法人 和歌山県栽培漁業協会事業計画

1 基本方針

本県地先海域における水産資源の維持増大を図るため、有用魚介類の種苗生産等を行い、放流等により栽培漁業を推進し、もって沿岸漁業の生産の向上に努める。

2 事業計画

(1) 種苗生産等事業

県の委託を受け放流等に供するため、次のとおり種苗生産を行う。

種類	計画数量	技術開発計画
マダイ	280千尾(30mm)	(種苗生産) 天然魚から健全な親魚を養成し、良質卵の確保を図るとともに、一層の生産コストの軽減を図りながら、活力のある種苗を安定的に生産する技術の確立を目指す。
ヒラメ	400千尾(30mm)	(種苗生産) 一層の生産コストの軽減を図りながら、活力のある種苗をより安定的に生産する技術の確立を目指す。
イサキ	220千尾(20mm)	(種苗生産) 一層の生産コストの軽減を図りながら、活力のある種苗をより安定的に生産する技術の確立を目指す。
オニオコゼ	60千尾(20mm)	(種苗生産) 天然魚から健全な親魚を養成し、良質卵の確保を図るとともに、一層の生産コストの軽減を図りながら、活力のある種苗を安定的に生産する技術の確立を目指す。また、購入直後の親魚へい死を減少させるため低塩分飼育の技術確立を目指す。 (中間育成) より安定的に生産する技術の確立を目指す。
クエ	50千尾(30mm)	(種苗生産) 形態異常魚の発現防止に努め、安定した種苗生産技術の確立を目指す。また、VNN防除のため、精子等の洗浄を検討する。 (中間育成) より安定的に生産する技術の確立を目指す。
アワビ類	350千個(25mm)	(種苗生産・中間育成) ・クロアワビ、メガイアワビ、トコブシ 安定した採苗を行う技術の確立を目指すとともに、活力のある種苗を安定的に生産する技術の確立を目指す。また、附着珪藻が不足した場合の代替餌料として微粒子配合飼料の使用を検討する。

※ センター別生産計画

(単位：千尾・千個)

	マダイ	ヒラメ	イサキ	オニオコゼ	クエ	アワビ類
北部栽培漁業センター	280	—	220	60	—	250
南部栽培漁業センター	—	400	—	—	50	100
計	280	400	220	60	50	350

(2) 種苗生産技術開発事業

(ク エ)

開鰾率と飼育継続の可否に関するガイドラインを作成するため、昨年に引き続き県水産試験場と共同試験を実施する。

クエ種苗生産においては、鰾（うきぶくろ）の形成時期と形態異常の発生率との関係を示すデータが不十分である。そのため、いつまでに鰾が形成されなければ、廃棄して採卵をやり直すべきなのかについて、はっきりした基準がない。そこで、飼育を継続するかどうかの判断を適正に行えるようにするため、開鰾率と形態異常魚の発生率等の検証を行う。

(3) 放流効果調査事業

(ク エ)

平成23・24年度に腹びれを抜去して放流したクエについて放流効果を検証していく。

また、移動・分散等についても把握するため、ダートタグ装着魚3千尾を県内3地先（日高町・印南町・串本町）に放流する。

(オニオコゼ)

平成20～22年度に資源回復対策事業で3府県（兵庫県・大阪府・和歌山県）が放流した標識魚（ALC耳石染色）の追跡調査を行い、今後の放流場所等の選定材料とする。

産卵用親魚の産卵後、約100尾から耳石を取り出し、染色の有無を調査する。

(4) 普及啓発事業

一般県民に栽培漁業への理解を深めてもらう一環として、小学生を対象に体験放流や中学生の職場体験学習等の受け入れを行う。